



い ず み

令和7年4月7日発行

<学校教育目標>

自ら行動する子  
かかわり合い、  
よりよい自分を  
目指す子

学校HP



コミュニティ  
スクール



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

## 令和7年度の和泉小学校

校長 鷲見 真太郎

令和7年度が始まりました。子供たち一人一人の表情からも、ひとつ上の学年に進級した喜びと自覚とやる気が感じられ、今年度もどのような成長を見せてくれるのか、今からとても楽しみです。さて、年度初めですので、これまでの学校経営方針に新たに加えた部分を中心に、お伝えさせていただきます。

まず、学校教育目標につながる元として、子供たちの思いや願いを入れています。これは昨年度に立ち上げた児童運営委員会「ザ・いずみサミット2024」の最終回に「今後の和泉小学校がどうあってほしいか」を話し合い、出てきた意見をまとめたものです。目指す学校の姿を「子供と大人が協働して築く和泉小学校」としている本校にとって、経営の根本に子供たちの思いや願いを反映させることは必須であると考え、このようにしました。

さらに、ウェルビーイングとエージェンシーの立ち位置を明確にし、「自由の相互承認」をウェルビーイングとともに全体のベースに据えました。「自由」に生きる「権利」は、全ての子供たちに認められています。ただ、時にその権利は対峙、相殺し合う場合もあり得ます。その時に大切なのはどちらかの権利を優先させるのではなく、どちらの権利も認められるよう、双方が納得できる第三の考えを対話の中で編み出すことです。これまでも、子供たちの「対話」を大切にしてきた本校だからこそ、この「自由の相互承認」という考え方をあえてベースに据えました。

また、昨年度の3月号でもお伝えしたように、校内サードプレイスとなる「みんなの居場所」の創設も、大きな取組の一つです。学校の中の新たな居場所として、誰でも活用できる部屋です。もちろん、子供たちの所属は各学年・学級であり、そこで過ごせることが、最上位目標ではありますが、それを無理強いしたり強引に急かしたりすることなく、子供たちと相談し、様子を探る中で方針を模索していきます。地域の方にもご協力いただき、様々な人と触れ合える場所を目指していますが、部屋長を中心に連携しながら、個に応じた対応をしていきます。

そして、大きな変更はありませんが、「問いをもって学び続ける児童」については本校の校内研究主題として継続しています。子供たちの「問い」を出発点に、子供たちとともに学習計画を立て、高学年では、学習方法も自分たちで選択し、展開していけるよう、各教科で研究し、推進していきます。そうした、子供たち中心の学びを重ねることで、主体的な学び手を育てます。10月には、令和6年度・7年度狛江の教育21研究協力校発表会が予定されています。そこを目指して、さらに高めていきます。

今後とも、ご理解、ご協力いただき、本校を支えていただけましたら幸いです。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

### 4月の安全指導

#### 安全な登下校について

○通学路の歩き方や横断歩道の渡り方

事故が起らないように周りを見ながら安全に注意して登下校できるように指導します。